

2020年12月28日

## **SAAJ** NEWS RELEASE

### 「企業結合—開示、のれん及び減損」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(会長：新芝 宏之 岡三証券グループ 代表取締役社長)は、2020年3月に国際会計基準審議会 (IASB) から公表された討議資料「企業結合—開示、のれん及び減損」に対して、12月28日に意見書を提出しました。

#### 【意見書のポイント】

- ✓ 予備的見解のパッケージには、のれん取得後の業績に関する開示の充実など、投資者に提供される情報の改善に寄与する提案も含まれているが、年次の定量的な減損テストの免除など、投資家が最も懸念するのれんの減損損失の認識が Too Late という問題の解決に逆行し、むしろ問題を悪化させる提案も多い。
- ✓ 開示の改善で投資家の不満を緩和し、減損テストの簡素化で作成者の不満を解消するという IASB の提案はあまりに安易であり、のれんに関する会計処理の改善に寄与するとは思えないため、我々は強く反対する。
- ✓ のれんの減損損失の認識が Too Little Too Late という問題は、IFRS においてのれんを非償却へ変更した 2004 年以降、2008 年のリーマン・ショックを機に顕在化したという認識が、IASB には欠けている様に感じられる。「減損のみアプローチを維持すべきであり償却を再導入すべきではない」という予備的見解を撤回し、償却の再導入を前提として、のれんの会計処理を抜本的に見直すべきであろう。
- ✓ 適用後レビューでも認識され、投資家が最も懸念するのれんの減損損失の認識が Too Late という問題を解決し、作成者の負担を軽減するには、減損テストの簡素化という提案は不適切であろう。この問題への対応策として、のれんの償却を再導入し、「規則的償却+減損処理」アプローチの新しい IFRS の開発に、IASB が正面から本気で取り組むことを期待している。

【添付資料1】 *Re: Discussion Paper “Business Combinations—  
Disclosures, Goodwill and Impairment”*

【添付資料2】 DP「企業結合—開示、のれん及び減損」について

本件に関するお問い合わせは下記まで

**SAAJ** 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：職業倫理教育企画部長 かいます 貝増 眞